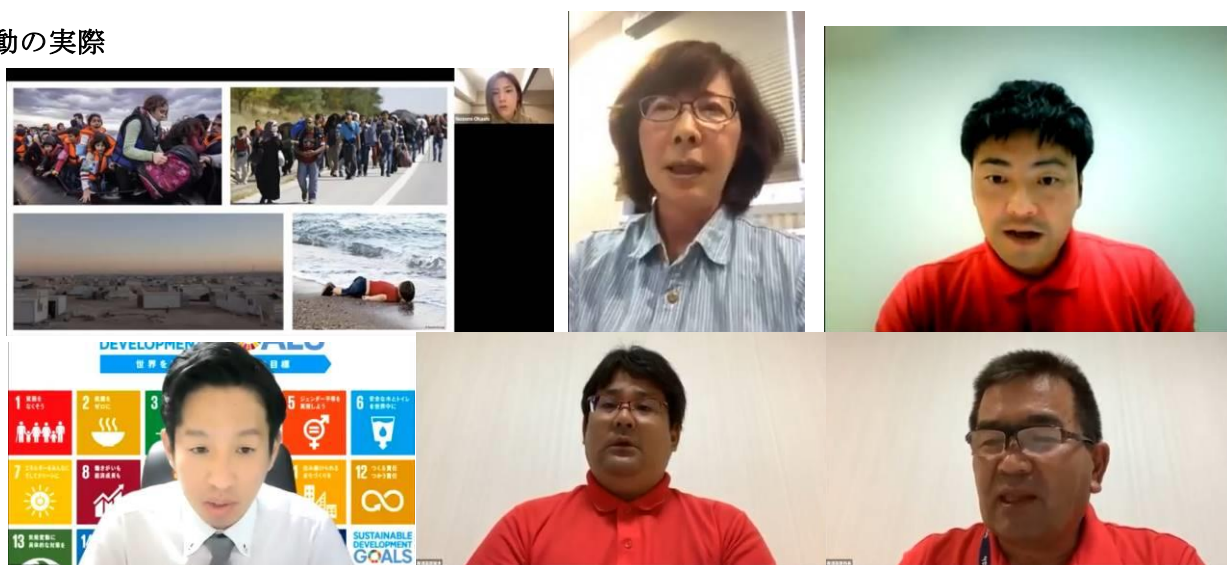


「SDGsは他人ごと？だから私は社会起業家をめざした  
～“ごく普通の高校生”だった私が、難民支援を始めたワケ～」

- 趣 旨** 持続可能な開発目標（SDGs）達成への取り組みが、国、企業、消費者に急速な広がりを見せる中、学校教育の中でも取り扱われるようになった。また、起業家教育も探求思考の涵養や社会参画の観点からその重要性が言われるようになってきている。  
本事業では青少年教育における持続可能な社会の担い手育成（ESD）の観点から、学生の社会との関わりを中心とした「外向き」志向の涵養を目指し、社会起業家（ソーシャル・アントプレナー）精神に触れる機会と場を提供する。
- 主 催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 開催日** 令和3年7月15日（木）19:00～20:00
- 会 場** WEB配信（ZOOM）
- 対 象** 中学生、高校生、大学生等、社会起業に興味のある個人  
県内でSDGsに取り組む企業・団体等、青少年教育施設職員 ほか
- 参加者** 42名
- 日 程**

日時	7月15日（木）
18:30	受付
19:00	開会 プレセッション（講師紹介）
19:10	特別講演（講師：大橋 希 氏） ～“ごく普通の高校生”だった私が、難民支援を始めたワケ～
20:10	トークセッション（講師：一般社団法人福岡SDGs協会 高木 正太郎 氏 国立夜須高原青少年自然の家 岩木 雄治 氏）
20:30	閉会

8 活動の実際



## 9 感想（アンケート自由記述より）

○この活動はもっと小さい頃から知っておくべきことだと思うので、小学生高学年や中学生にもっとこの活動のことを啓発するべきだと思います。すごく勉強になりました。（10代）

○今回はこのような場を設けていただき、本当にありがとうございました。私はヨルダンという国名は聞いたことがあっても、恥ずかしながら全く現状は知りませんでしたし、ただ外国で起こっていることだからとあまり関心を持っていませんでした。しかし今回の講演を伺って決して他人事ではないと感じました。今までは同情で終わっていましたが、これからは難民の方が作られたものを買ったり、学校で1ヶ月に一回行われている募金をしたりするなど少しでも役に立ちたいです。

とはいえ中学生なので何もできないことがないと考えていましたが、身近なことでもどんな些細なことでもいいと伺ったので常に周りに目を向け、視野を広く持つことから始めたいと思います。また、SDGsの浸透について事前に質問させていただいておりましたが、SDGsがなくてもパートナーシップを自らで組んで助け合うヨルダン人は素敵だなと感じました。是非とも見習いたいです。私は今回の話を聴いて改めて自らの豊かさを実感しました。今まではその豊かさがぼんやりとしていましたが、今回の講演でイメージが明瞭になりました。だからこそ大人になったときには、困っている人に手を差し伸べられるような心も豊かな人になりたいです。（10代）

○コロナ禍のなか実施していただきありがとうございました。難民についてもそうだが、改めて自分がいろんなことに感心をもち、行動に移すことの重要性を知れました。いまは、難しいですが、リアルで話し合える機会があればと思います。（20代）

## 10 成果

○アンケート自由記述、「自分には何もできないことがないと感じていたが、常に周りに目を向け、視野を広く持ち、身近なこと、些細なことから始めたい」、「社会起業家をするような人は特別な人だと思っていたが、今からでも自分は変われると感じた」とのご意見があった。このことから学生の「外に目を向けてみよう」、「自分にもできることがありそう」という心境、心持ちの変化が見て取れる。よって、本事業の趣旨である、学生の社会との関わりを中心とした「外向き」志向の涵養を目指す点と社会起業家精神に触れる機会と場を提供する点において成果が見られた。

## 11 課題

○上記のような成果があった反面、「SDGsと難民支援はリンクしない気がする」とのご意見もあった。しかし、SDGsが掲げる“誰一人取り残さない”世界の実現のためには難民支援を切り離して考えることは難しいと考える。今後、SDGsと難民支援の関連性をわかりやすく伝えていくための検討が必要である。

○「トークセッションのテーマがわかりづらかった。」のご意見があった。今後、ポイントを絞ってテーマを設定するなどの工夫が必要である。

○「時間が足りなかった。」のご意見があった。今後、質疑応答の時間を長く設定するなど、時間配分について改善していく。

○「もっとゲスト同士の話を聞いてみたかった。」、「もう少し質問できる環境がほしかった。」などのご意見があった。今後、テーマごとにグループを分けるなど、参加者が質問できる場の設定の工夫（ブレイクアウトルームの活用など）が必要である。